

議長（竹島貴行君） ただいまの出席議員数は８人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

８番 前原英石君。

８番（前原英石君） 初めに、３月１１日に発生しました東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に心よりお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々には謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を心よりお祈りいたしております。

本定例議会でも金森村長の提案理由説明で、「一日も早い復旧・復興に向け、微力ではありますが、本村もできる限り被災者、被災地へ支援してまいりたい」と述べておられました。私も舟橋村民として、また舟橋村議会の一員として村長と同感でございます。今後も引き続き支援に協力してまいりたいと思っております。

これから質問に入るわけですが、先ほど質問に立たれました塩原議員と質問が類似している点がございますが、ご理解のほどよろしく願いをいたします。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

本定例議会でも報告しておりますのは、情報・記録管理の現状と課題、そしてデータ化について村長に質問をいたします。

総合計画基本構想では、今後取り組むべき課題として、村民が村のことを知っているむらづくり、村の歴史・埋蔵文化財などの周知などを今後の課題として挙げられております。村民にこの村のことを知ってもらうためには、舟橋村の過去の歴史から学ぶ資料や、これからの作成課題となるであろう村誌の作成も今後取り組むべき重要課題ではないかと考えます。

村誌については、先ほど塩原議員も述べておられましたが、昭和３年１２月に、そして昭和３８年１０月に第２編が発行され、それを最後にこれまで４８年間、第３編が発行されておられません。その間、空白となっている期間に蓄積されているこの村にとっての歴史的な出来事や情報などの資料、そしてまた災害時の記録、それにこれまでに何カ所も本調査が行われてきた埋蔵文化財等の調査記録や情報（写真、ネガ、画像、映像、資料、図面、災害時の記録写真）などは現在どのように保管をされているのでしょうか。

近年、デジタル化の技術は進歩し、この舟橋村でも多くの情報がデータとして保存されるよう変化してきていると思いますが、データ化される以前の記録や情報についてはどのように保管管理されているのでしょうか。

昭和３年に発行された村誌の一番新しいデータには、大正１５年、世帯数は２２１件、

人口は1,161人、そして35年後の昭和38年に発行されました第2編での新しいデータでは、昭和36年、世帯数246件、人口1,356人となっております。それが今日では、この舟橋村の世帯数は、人口が急激に増加し、世帯数967世帯、人口は3,029人と飛躍的に増加をしてきています。その間、約半世紀の間に、新たに舟橋村民となられた方々は半数以上になるのではないかと思います。その人たちはどのような手だてでこの舟橋村の歴史を知ればよいのでしょうか。

そのような村民の皆さんや子どもたちに、舟橋村の過去の歴史や記録を貴重な財産として伝えていく必要があるのではないのでしょうか。そのためには、それなりの予算が必要となると思いますが、現在、辛うじて役場や図書館に残されている貴重な村の財産である情報や資料を、早い段階で整理、分類しデータ化しておくことが必要であると考えます。

そうすることによって、今後課題となるであろう村誌の作成時の効率化も図れると思いますし、また村民から情報の閲覧を求められたり、各種団体や協会から記念誌やパンフレット作成等の資料を求められたりしても、過去の情報や資料を何日もかけて探すのではなく、どの課でもボタン一つで瞬時に検索できるスムーズな対応ができるようになると思います。

1、2編の村誌を見てみますと、1編では編集から発行まで約3年、2編では約2年の歳月をかけて作成されています。2編が発行されてから、あと2年で一つの節目の50年が経過します。そのような現実も踏まえて、整理の意味も含め、早急なデータ化が望まれると考えます。

冒頭にも述べましたが、東日本大震災においても、マグニチュード9の巨大地震、そして大津波、火災によって、さまざまな情報や再生不可能な記録など、貴重な財産までが流れたり破壊されたりした町もあったと聞いております。

私たちが住んでいるこの舟橋村においても、今度のような災害に見舞われないとは言いきれない今日、舟橋村の歴史や財産、今後、舟橋村の財産となるべく貴重な資料など、適切に管理、保管していくことが必要だと考えます。

情報管理や記録・保管システム構築について村長はどのような考えをお持ちなのか、村長の考えをお聞きします。

以上で質問を終わります。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） それでは、前原議員の情報・記録管理の現状と課題、そしてデータ化につきましてお答えを申し上げたいと思います。

現在の資料の保管管理の状況でありますけれども、我が村は埋蔵文化財の包蔵地となっておりますので、かなり村の公共施設といえますが、いろんなものを建てたり、あるいはまた民間のデベロッパーが開発したところの本調査なりをやっておりまして、その結果、報告書等ができておるわけであります。これは貴重なものでありますので、こういった報告書等につきましては、役場の資料室並びに図書館で収蔵していただいております。それからまた、村が作成した計画書、いろんな当務につきましても3階のほうへやっておるわけであります。

一方、ご案内のとおり、図書館は電算化が進んでおりまして、蔵書の検索システムで資料の一部を映像で見ることが可能になっておるわけでありまして、こういった状況でありますけれども、依然として庁内はそうようになっていないというのが現状であります。

議員のご指摘にもあったように、整理分類によるデータ化は大変必要だと私も考えております。これは以前から、そういったことをやっているコンサルがございまして、いろいろとご提案もいただいた時期があったわけでありますけれども、そのときはOA機器化すれば事が足りるやに思っておったわけではありますが、今、村誌の編さん、いろんな過去をたどっていきますと、そういったデータがない。これは非常に残念なことであります。特に今のシステムといえますが、新しいのができますとCD化になりまして、いろんなものが画面とともに、映像まで残っておるといようなことになっておりますので、そういったことについて十分検討してまいりたいと思っております。

上市町のことを聞いてみますと、新聞記事、俗に県内のニュース、あるいはまた国のニュースもあると思いますが、主に私は上市町のニュースだろうと思うんですが、そういう記事についてはデータベース化されておると。それが町誌編さんに大変役だったというようなことも聞いております。

この際、今私は、村誌の編さんということ、先ほど塩原議員の質問にも答えましたけれども、そういった視点からこのデータ化というものに対して取り組んでまいりたいと思っております。

村誌のことについていろいろと前原議員はおっしゃったわけありますけれども、いずれにいたしましても、私もそのように共通理解をしておるわけありますので、長々

とそれについて申し上げるまでもないと思っております。前向きに取り組んでまいります。

どうかそういったデータベース化等につきましても、議会によく報告なり、あるいはまたこのように進めたいということを皆さん方と協議をしながら、今後の 後にこういうことをしたほうがよかった、しなかったほうがよかったというような悔やみのないようにしていくべきだろうと、こういうふうに思っております。

いずれにいたしましても、そういった場合にはかなりの経費もかかると思います。そういった点、十分検討すると。そして、議員の皆さんと協議をしてやっていくんだということをこの場をかりましてお答えいたしまして、私の答弁にかえさせていただきたいと思えます。

よろしくお願ひ申し上げます。